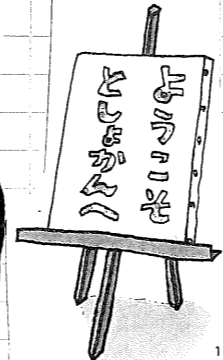


6月は雨の季節。部屋でのんびり本を読んでみてはどうですか。新しい本の紹介で〜す!



動物が大好きな僕が、彼らの生き方から考えた、人生の話。読み終わったら、自分の生き方に思いをめぐらせたいかな。



ナマケモノの朝は、午後からはじまる。 (松井ケムリ, Gakken)

ゴリラは、強いのに争わない。リスは、隠した木の実を忘れる。でも、ときにそこから森が生まれる。リスが森を育てるように、気づかないところで誰かのためになっていることも、きっとありますよね。

だったらこれならどうですか (ヨシタケシンスケ 白泉社)

大人気絵本作家の頭の中をのぞいてみよう! 東京開催の「ヨシタケシンスケ展かもしれないたっぷり増量タイプ」のための描きおろし原画・会場写真も収録。

自分が一番おもしろいと思うものは、やっぱり自分でつくりしかなないのかもしれない。



杏のパリ細うで繁盛記 (杏, 新潮社)

『日本であろうと、パリであろうと、地球を舞台に人間力を出し切りながら生きる杏さんの姿。これ以上、頼もしい母親があるだろうか。』 (ヤマザキマリさんのメッセージ) (漫画家・文筆家)



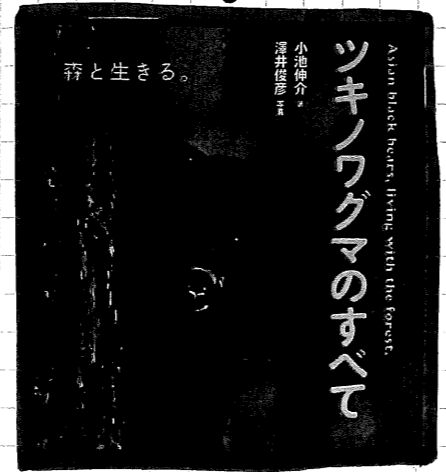
大好きな、宝箱のような街で暮らすことにした。

私の地図は、これからどんなものになるのだろうー。

踏切の世界 (chokky)

一日に何本もの列車が通過する踏切を、正確なタイミングで、確実に動作させるメカニズムってよくよく考えたらものすごいことだと思いませんか!? 「踏切」を通じて鉄道の楽しさ、旅のおもしろさをお伝えできれば幸いです。

ツキノワグマのすべて (小池伸介 文一総合出版)



クマにおそわれないいちばの方法は、クマを知ることだ。

無謀な運転をくり返すバイクの正体とは?



名探偵コナン。ハイウェイの噴笑使 (小学館ジュニア文庫)

横浜で開催されるバイクフェスティバルに向かっていたコナンたちは、高速道路で事故に巻き込まれてしまう。原因は無謀なスピードで駆け抜けるサズの黒いバイク。いったい何なのか、その目的とは!? 2026年劇場版コナン、バライズ。

『岸田さんは、「できない」自分の弱さを「恥ずかしい」と感じるのではなく、むしろ楽しんでるように見える。』 (小川公代さんのメッセージ) (英文学者)



傘のさし方がわからない (岸田奈美, 小学館文庫)

日常にかさむ小さな事件を、岸田奈美が鮮やかに笑いへと昇華していく。読むほどに、うまくいかない毎日すら愛おしくなるエッセイ。

ぼくには笑いがわからない (上村裕香, 角川書店)

好きな人を、ぼくが笑わせたい。真面目な大学生・耕助は恋と「自分のことば」を年に入れるため漫才を始める。



おかしいほうが人生楽しいやん。

2026年 本屋大賞 翻訳小説 部門 第1位



空、はてしない情 (上) (メリッサ・ダ・コスタ, 講談社)

エミルは同情から逃れるため、旅に出ることにした。余命2年。同行者を掲示板で募集すると、現れたのはジョアヌという若い女性。2人はとりあえず、キャンピングカーでピレネー山脈に向かうことにした。それは一驚くほど美しい旅の始まりだった。

未来 (湊かなえ, 双葉文庫)



「こなたは、章子。私は20年後のあなた、30歳の章子です。これは本物の未来からの手紙なのです。ある日突然、少女に届いた一通の手紙。送り主は未来の自分だという。家にも学校にも居場所のない追いつめられた子どもたちを待つ未来とは!?

昔のざんねん、今のざんねん (今泉忠明 監修)



今昔ざんねん 対決!? こなたにやばいのいたんですね。

